

3 研究のまとめ

(1) 研究の成果と課題

ア 成果

- ・単元で身につけさせたい力を基に、学習用語に着目して指導目標や指導計画を立てました。学習用語を用いて既習事項を振り返らせたり、用語の意味の共通理解を図ったりすることは、単元の導入で大変効果的でした。学習用語を活用した指導を3年間積み上げ、系統性を意識した指導を継続していきたいと思えます。
- ・書かれていることを根拠にして自分の考えをもたせるために、「文章の内容を読み取ること」「読み取ったことを表現すること」「読み取ったことを自分の考えに生かすこと」を単元の学習に位置付け、指導しました。段階的に分けて考えることで、どの段階でつまづいているのかを意識して指導することができました。また、実態に応じて、できていない段階を重点的に指導することもできました。「読むこと」の学習において継続的に取り組むことにより、系統性をもたせた指導につながると考えます。
- ・自分の考えを書いて終わるのではなく、書いたものを再考し、自分の考えを再構築したり、人の意見を聞いて思考を深めたりすることができる課題を設定しました。また、振り返りを言語活動化することによって生徒の主体的な学習につなげることができました。単元の学習過程や学習内容を見直したり、学習課題について問い直したりすることを継続して単元計画に位置付けることが重要だと考えています。

イ 課題

- ・単元を通して課題解決できるような学習課題を、生徒が自ら設定できるような工夫をしていく必要があると考えています。さらに、生徒に学習させたいことを教師が授業をする前に模擬学習することで、教師主導の授業展開から、生徒主体の単元展開を目指した単元の指導計画を綿密に立てることができそうです。そのことで、生徒が見通しをもって授業に臨むことができます。学習計画を生徒に自覚させることが大切だと考えます。
- ・主体的に学習を進めていくためには、自分がどの段階にいるのかを自覚し、自らの学びを振り返る必要があります。意欲的に学習に取り組めるように、評価規準を作成し、生徒にも示します。生徒はそれを使って、自己評価を行い、その結果から次の学習を見通させることで、意欲的な学習につながると考えています。
- ・自分の考えをまとめさせる際には、ワークシートも普段の発問と同じように、一読で分かるような発問の工夫をしたり、交流活動では、何をめざす活動であるのかを明確に示したりする必要があると考えています。

(2) 2年次への研究の方向性

- ・生徒が何を学ぶのか、どのように学ぶのかという視点で授業を考えていきたいと考えています。教師が学ぶ価値のある言語活動を設定し、生徒がアクティブに活動する授業改善策を提案したいと思えます。
- ・研究1年次の今年度は、単一の教材での授業改善に取り組みました。2年次は、今年度の研究の成果と課題を基に複数教材について授業改善策を検討し、提案する予定です。また、公開授業研究会を開催し、汎用性のある授業展開案を提案したいと考えています。

達富教授の「学びどき・教えどき」

中学校国語



授業改善にむけて、佐賀大学文化教育学部
達富 洋二 教授 に御助言を頂きました。

① 学習課題・学習計画

② 言語活動の設定

③ ふみ込んだ課題

④ 教師の模擬学習（評価規準の設定）

⑤ ふりかえり

御助言ありがとうございました。